

## QUALIFY

MARCH 18 [SAT] CLOUDY / DRY

2日間に渡って行われた特別スポーツ走行、占有走行を経て、迎えた3月18日(土)は、前日の夜半から雨が続き、午前10時30分から行われたフリー走行はウェットコンディション。シンティアム アップル KTMはこの1時間のセッションを走らず、午後2時からの公式予選に臨んだ。

路面がまだ濡れている状況だったことから、急遽スケジュールが変更され、Bドライバー予選が先行して行われたが、ここでまずは加藤が2分07秒688を記録。#47 アストンマーティンに対し1.370秒差をつけると、続くAドライバー予選でも井田が好走。2分09秒320を記録し、合算で3秒以上もの差をつ

けST-1クラスのポールポジションを獲得。セットアップ改善がタイムとして、そして結果として繋がった。

さらに決勝レースへの準備も兼ねたCドライバー予選では高橋が2分15秒726、Dドライバー予選では吉本が2分08秒599を記録するなど、すべてのドライバーが#47 アストンマーティンに対して大きなタイム差を築き、決勝への自信をつけ予選を締めくくった。



## RACE

MARCH 19 [SUN] FINE / DRY



不安定な天候だった予選日から一夜明けた3月19日(日)の鈴鹿サーキットは、朝から晴天に恵まれた。シンティアム アップル KTMは、スタートドライバーに井田を据え、午前11時45分からの決勝レースに臨んだ。1周のフォーメーションラップに続き切られたスタート直後、ジェントルマンドライバーが乗るST-X車両に詰まってしまったこともあり、井田は#47 アストンマーティンに先行されてしまった。とはいえ、序盤から井田はプロが乗る#47 アストンマーティンをピタリと追走する速さをみせた。

そんななか、スタートから56分が経過したところで、#47 アストンマーティンが先行してピットイン。翌周には井田もピットインし、給油を行う。今季からのレギュレーション変更にともない、Aドライバーの井田は75分間の走行義務があるが、ST-1クラスのシンティアム アップル KTM、#47 アストンマーティンはどちらも75分をフルに走り切るだけの燃料がもたないのだ。

チームの迅速な作業もあり、井田は#47 アストンマーティンを先行してピットアウト。その後、スター

トから1時間7分というところでコースアウト車両が出たことからフルコースイエローが入り、解除後もストップ車両が出てオイルがコースに出たことから、フルコースイエロー、さらにセーフティカー導入となる。このタイミングで井田は一度ピットに入った後、ダブルスリットに入ってしまった。

このセーフティカーランもあり、井田はしっかりと自身とタイヤを休ませることに成功すると、#47 アストンマーティンを先行しつつ、スタートから2時間21分という長丁場をしっかりと走り切り、吉本にステアリングを託した。これで戦略の面でも大きく幅が広がり、開幕戦の勝利に大きく近づいた。

吉本は交代直後、2分10秒318というベストタイムを記録するなど、快調なペースでラップを重ねていく。途中フルコースイエローなどを挟みつつも、順調なレースが続いていた。

しかし、スタートから3時間18分というタイミングで、まさかのトラブルが襲いかかった。突然水温が上がり、エンジントラブルが発生。吉本は東ショートカットに車両を止めざるを得なくなってしまったのだ。

レースはその後、ST-5車両の大きなアクシデントのために赤旗終了となったが、不幸中の幸いで80周を走っていたシンティアム アップル KTMは完走扱いとなりポイントを加算することができた。

次戦は大きなポイントが得られる、重要な富士24時間。チームはトラブル再発防止を目指して臨む。

